

# ナ○イリ士戦女器便肉



この作品には  
グロテスクな表現が  
含まれています

DOJIN  
R18  
成人向け

山賊・触手・ナメクジ・排泄物で犯され  
卵・ゴキブリを出産する変態汚辱作品!

女騎士の城

私の名前は『イリーナ・フオウリー』 剣の魔法の大地『フォーセリア』で生きる神官戦士です。最高神ファリスの教えを伝えるため、剣の腕を磨くため、一時的に仲間の下を離れ、巡礼と人助けの一人旅を始めました。 ……というのは表向きの理由です。

実は私、こう見えて、凄く変態なんです。

今まで色々な冒険をしてきて、酷い目に会った女性を目の当たりにしてきました。

山賊に輪姦されたり、モンスターに犯されたり、魔物の幼虫を出産したりする女性達…。

そんな姿を見て、私は何度も『あれが自分だったらいいのに…』とふしだらな事を考えました。そんな変態には罰を与えなければなりません。

だから私は、仲間に心配をかけず自分に罰を与えるために、一人旅を始めたのです。





どうやって自分に罰を与えるのかって？

それは勿論、私が見てきた女性と同じ目に……いや、むしろもっと酷い目に私をあわせる事です。だから、普通にセツクスして処女を喪失したのでは、全く罰になりません。相手は汚いほど、外道なほど、人の道を踏み外してなければなりません。いっそ、人間でなくても構いません。

さて、私が処女を散らされるのにふさわしい相手を探していた所  
海沿いの村に海賊が現れた、という話を耳にしました。

ファリスの神官戦士として、村を襲う海賊集団を見逃す事は出来ませんし、  
薄汚れた海賊集団なら、私の処女を散らす相手としては問題ありません！

私は早速、ノーパンノーブラで海賊のアジトへと向かいました。





【海賊】「ああん？　なんだデメーは？」

私が海賊のアジトである廃墟へと乗り込むと、

十数名の海賊達が一斉に私の周囲を取り囲み、睨み付けました。

【イリーナ】「私はファリスの神官戦士イリーナ！　貴方達をやっつけに来ました！」

【海賊】「おい、こんなデビが俺達をやっつけるってよー！」

【海賊】「へっ、すぐに裸にひん剥いて犯しまくってやるからよ、楽しみにしてな」

【海賊】「見るよこいつ、ノーブラだぜ。最初からそれを期待して来たんじゃないの？」

海賊達は下卑た笑いを浮かべ、舌なめずりをしながら、武器を手に私に近寄ってきます。

私は背中に背負ったグレートソードを抜いて、海賊達に向かって振りかぶりました。





【海賊】「ぐぎゃーっ！っ！っ！ ひいっ！ も、もう勘弁してくれ！」

私と海賊との戦闘は、一方的な結果に終わりました。

そもそも、数多の冒険を繰り返した私と、ただの海賊ではレベルの差が大きい上、

私の規格外の筋力で振り回すグレートソードは、海賊達を2〜3人ずつなぎ倒します。

十数名いた海賊のうち、半数を昏倒させた所で、海賊は戦意を喪失しました。

【海賊】「た、頼む、命だけは助けてくれ……！ 自首でも何でもするから！」

私が入り口をふさいでいるので、逃げる事も出来ず、海賊達は土下座しました。

【イリーナ】「わかりました。許してあげますが、自首する前に二つお願いがあります」

私は武器を地面に置いて、スカートの両端を摘み上げました。







【海賊】「お願いって…一体なにを…ええええっ!?」



私がスカートを摘み上げると、

無駄毛の一本も生えていない、男を知らない割れ目が露になりました。

海賊達は、突然の私の行為に驚いて、何が起きているのか理解できていないようです。

【リーナ】「私は今、自らの罪を清める為に、自分に罰を与える旅をしています。

その罰の第二步として、貴方達に犯されて処女を散らされたのです」

【海賊】「…へっ…やっぱりそういう事だったのか。いいぜ、たっぷり犯してやるよ…」

海賊達は私のお願いを理解したのか、よるよると立ち上がり、薄汚れたペニスを露出させました。



【海賊】「ほら、尻をうち向けな」

【イリーナ】「う…は、はいっ…」

私は海賊に言われた通り、

海賊達にお尻を向けます。

海賊達は私の割れ目を両手で広げ、

じっくりと視姦します。

【海賊】「へえ、本当に処女なんだな。

なのに海賊に犯されたいとか、

てめえマジで変態だな」

海賊は私を罵りながら、

処女膜をつまんだり

引っ張ったり弄びます。

私は恥ずかしさと同時に、

屈辱感を覚えました、

そうでなければ罰になりません。

普通の幸せなセックスなど、

私には必要ないのですから。

【イリーナ】「は、早く…犯してくださいっ…」

【海賊】「それじゃ存分に楽しませてもらうぜ」

海賊はそう言って、薄汚れた服を脱いで、

勃起したペニスを露出させました。





【海賊】「ほら、見てみるよ。」

こいつがてめえの処女を奪う

俺様のペニスだ」

「イリーナ」「うあっ…」

ペニスを見た事は何度もあります。

目の前で女性がレイプされている所も

何度も何度も見てきました。

でも、それは他人が犯されている、

自分とは無関係のペニスです。

でも、今日の前にある、

薄汚れ、垢まみれで、

吐き気を催す異臭を放つ、

赤黒いグロテスクなペニスは、

今から私を犯すためのモノです。

「イリーナ」「これが、私の初めての…」

そう思うと、私はドキドキして、

下腹部がジンジンと疼いてしまいます。

海賊がペニスを私の割れ目にこすりつけると、

私の割れ目は卑猥な汁を滴らせませす。

【海賊】「それじゃ、処女喪失と行こうか！」  
そして海賊は、私の割れ目にペニスを挿入しました。



